

第50回海洋開発シンポジウム 特別企画
海洋開発のこれまでとこれから
2025年6月30日(月)

海洋開発シンポジウムの歴史と 未来への提言



一般財団法人 沿岸技術研究センター
審議役 下迫健一郎

海洋開発委員会の歴代委員長

初代 : 本間 仁 1969～1983年度

※1955～68年 初代海岸工学委員長

2代 : 酒匂敏次 1984～1994 //

3代 : 佐伯 浩 1995～1999 //

4代 : 高山知司 2000～2005 //

5代 : 高橋重雄 2006～2009 //

6代 : 柴山知也 2010～2013 //

7代 : 水谷法美 2014～2017 //

8代 : 下迫健一郎 2018～2021 //

9代 : 富田孝史 2022～

海洋開発シンポジウムの歴史

1969年 海洋開発委員会設置

1970～78年 第1回～第9回 : 土木学会講堂

1979～84年 ※参加者の減少により一時中断

1985～87年 第10回～第12回 : 土木学会講堂

1988年 第13回 : 神戸(テクノオーシャン88の一環)

1989～95年 第14回～第20回 : 土木学会講堂

1996～2019年 第21回～第44回 : 全国各地で開催

2020年 第45回 : 新型コロナ対策のため中止

2021～22年 第46回～第47回 : オンラインでの開催

2023年 第48回 : 網走(第45回の当初開催予定地)

2024年 第49回 : 徳島(第46回の当初開催予定地)

2025年 第50回 : 名古屋

論文数と参加者数の変遷

回	年	論文数	参加者	開催地	回	年	論文数	参加者	開催地	回	年	論文数	参加者	開催地
1	1970	5	200	土木学会	17	1992	83	270	土木学会	34	2009	232	540	横浜
2	1971	5	150	土木学会	18	1993	71	220	土木学会	35	2010	215	413	鹿児島
3	1972	7	220	土木学会	19	1994	66	263	土木学会	36	2011	209	385	松山
4	1973	10	150	土木学会	20	1995	67	236	土木学会	37	2012	215	444	函館
5	1974	9	150	土木学会	21	1996	87	220	東京	38	2013	211	358	米子
6	1975	9	100	土木学会	22	1997	158	400	網走	39	2014	206	403	新潟
7	1976	11	120	土木学会	23	1998	92	300	東京	40	2015	204	450	神戸
8	1977	11	90	土木学会	24	1999	129	275	宮崎	41	2016	191	385	浜松
9	1978	6	60	土木学会	25	2000	107	247	東京	42	2017	176	400	仙台
				一時中断	26	2001	116	280	鳥取	43	2018	174	367	金沢
10	1985	33	150	土木学会	27	2002	137	400	下関	44	2019	174	466	北九州
11	1986	29	170	土木学会	28	2003	156	434	金沢	45	2020	184	0	中止
12	1987	36	200	土木学会	29	2004	223	482	宜野湾	46	2021	162	(873)	オンライン
13	1988	58	272	神戸	30	2005	193	645	小樽	47	2022	152	(2778)	オンライン
14	1989	53	220	土木学会	31	2006	165	450	大津	48	2023	162	(2442)	網走
15	1990	63	250	土木学会	32	2007	209	477	長崎	49	2024	167		徳島
16	1991	68	270	土木学会	33	2008	224	472	倉敷	50	2025	161		名古屋

論文集の名称の変遷

1970～1978年：**海洋開発シンポジウム講演集**1巻～9巻

1979～1984年：(一時中断)

1985年：**海洋開発シンポジウム論文集** 10巻
(海洋開発論文集1巻)

1986～2010年：**海洋開発論文集**2巻～26巻

2011～2022年：**土木学会論文集B3(海洋開発)**

Vol.67～78 2号(特集号)

※1号は通常号

2023年～：**土木学会論文集** Vol.79～

No.18 特集号(海洋開発)

※No.1～12は通常号(毎月発行)

No.13以降は各分野の特集号等

第43回(2018)海洋開発シンポジウム(金沢)

第28回(2003)以来, 2度目の開催
(東京以外では初めて)

前日シンポジウム:

「海に向かった観光金沢の次なる飛躍」

クルーズ船がもたらす港の賑わいの創生
金沢港の整備・運用, 金沢市の観光政策等

特別セッション:

1. 港湾・海岸インフラの維持管理でのICT活用と課題
2. 北極海航路の動向と展望

※T1807が日本海を通過

悪天候のため, 見学会はすべて中止

第44回(2019)海洋開発シンポジウム(北九州)

福岡県では初めての開催

前日シンポジウム:

「わが国における洋上風力発電の可能性
-北九州港響灘地区の取り組み-

現地見学会:

響灘の洋上風力発電施設

特別セッション:

1. 生産性向上を目的とした港湾・海岸事業におけるICT活用
2. 高度数値解析ツールの活用について

第45回(2020)海洋開発シンポジウム(網走)

新型コロナにより中止(開催予定日:6月25, 26日)

2/27 海洋開発委員会

延期・中止の可能性を議論, この時点では開催予定

4/3 委員長・幹事長により中止を決断

4/14 幹事会(メール審議)で中止を決定

4/22 幹事会(web会議)で中止を正式承認

4/22 論文投稿者へ, シンポジウムの中止および 論文集の予定どおり発刊を通知

第46回(2021)海洋開発シンポジウム(徳島)

新型コロナによりオンライン開催に変更

海洋基本計画

第1期海洋基本計画(2008年制定)

第2期海洋基本計画(2013年制定)

第3期海洋基本計画(2018年制定)

- ・新たな海洋立国への挑戦
- ・総合的な海洋の安全保障

第4期海洋基本計画(2023年制定)

2つの支柱(海洋政策の方向性)と7つの主要施策

- ・総合的な海洋の安全保障
- ・持続可能な海洋の構築(脱炭素社会の実現に向けた取組)
- ・着実に推進すべき主要施策
 - (1)海洋の産業利用の促進
 - (2)科学的知見の充実
 - (3)海洋におけるDXの推進
 - (4)北極政策の推進
 - (5)国際連携・国際協力
 - (6)海洋人材の育成・確保と国民の理解の増進
 - (7)感染症対策

近年の前日シンポジウム，特別セッション等

回	開催日	開催場所	形態	テーマ
39	2014.6	新 潟	特別セッション	<ul style="list-style-type: none"> ・洋上風力発電の実用化に向けて ・東日本大震災による海洋環境の変化
40	2015.6	神 戸	特別セッション	<ul style="list-style-type: none"> ・洋上風力発電の実用化に向けて ・高潮防災
41	2016.6	浜 松	特別セッション	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡県沿岸域における海岸保全 ・高潮防災
42	2017.6	仙 台	シンポジウム 終了翌日に開催	津波シンポジウム
			特別セッション	<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強い海岸・港湾構造物 ・北極海航路の動向と展望
43	2018.7	金 沢	前日シンポジウム	海に向かった観光金沢の次なる飛躍
			特別セッション	<ul style="list-style-type: none"> ・港湾・海岸インフラの維持管理でのICT活用と課題 ・北極海航路の動向と展望
44	2019.7	北九州	前日シンポジウム	我が国における洋上風力発電の可能性 — 北九州港響灘地区の取り組み —
			特別セッション	<ul style="list-style-type: none"> ・生産性向上を目的とした港湾・海岸事業におけるICT活用 ・高度数値解析ツールの活用について
45	—	【中止】	—	—
46	2021.6	オンライン	特別セッション	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革を踏まえた港湾・海岸事業の進め方 ・高度数値解析ツールの活用について
47	2022.6	オンライン	特別セッション	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革を踏まえた港湾・海岸事業等の進め方 ・ブルーカーボン生態系の増殖技術
48	2023.6	網 走	企画討論会	気候変動と近年の高潮災害・対策
			特別セッション	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋開発分野における計測・観測技術 ・ブルーカーボン生態系の増殖技術
49	2024.6	徳 島	企画討論会	南海トラフ巨大地震とその対策
			特別セッション	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋開発分野における計測・観測技術 ・沿岸域における気候変動の影響とその対策

今後への期待(重視すべき課題)

- ・気候変動への対応
 - 海洋の温暖化や海面上昇への適応策と緩和策
 - 洋上風力発電等の再生可能エネルギーの導入促進
- ・海洋資源の持続可能な管理
 - 海底資源の開発推進
 - 水産資源の適正管理
- ・海洋環境の保全
 - 海洋汚染の防止
 - 海洋生態系の回復・保護
 - 海洋環境のモニタリング体制の整備

海洋に関連する事業はますます重要になっている
他分野との連携・協力, AIの活用が不可欠

ご清聴

ありがとうございました